

Makita®

取扱説明書

ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

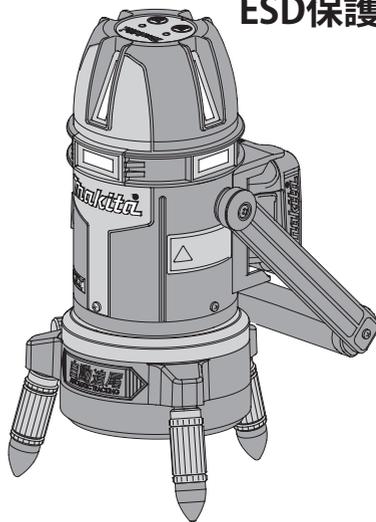
充電式屋内・屋外兼用
追尾墨出し器

モデル **SK506GD**

モデル **SK313GD**

モデル **SK210GD**

ダイレクトグリーン
ESD保護対策



このたびはマキタ充電式屋内・屋外兼用追尾墨出し器をお買い上げ賜り厚くお礼申し上げます。ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本製品の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



目次

・ 主要機能	-----	3
・ 安全・使用上のご注意	-----	5
警告事項	-----	5
ご使用上の注意とお手入れ	-----	10
・ 特徴	-----	12
・ 各部の名称	-----	13
・ 標準付属品／別販売品	-----	14
・ 使用方法	-----	16
バッテリー（別販売品）について	-----	16
バッテリーの充電方法	-----	18
ACアダプタ（別販売品）について	-----	25
USB用アダプタ（別販売品）について	-----	26
単3形電池ホルダ（別販売品）の使い方	-----	27
墨出し器の使い方	-----	28
墨出し器の設置について	-----	28
電源スイッチの操作	-----	28
ライン光の輝度切替	-----	29
ライン光のモード切替	-----	29
水平微動装置	-----	30
ゴム足キャップ	-----	30
リモコン追尾受光器の使い方	-----	31
リモコン機能の使い方	-----	32
自動追尾機能の使い方	-----	34
リモコンチャンネル切替	-----	35
収納ケースの空気抜きについて	-----	36
・ 精度の点検	-----	37
水平ライン精度の点検	-----	37
鉛直点および垂直ライン精度の点検	-----	38
通り芯精度の点検	-----	38
おおがね精度の点検	-----	39
・ 保証書／保証規定	-----	40

主要機能

(1) 追尾墨出し器

	SK506GD	SK313GD	SK210GD
レーザー投射光源	ライン光：緑色半導体レーザー 下部スポット光：赤色半導体レーザー		
波長	510～530nm（下部スポット光650～660nm）		
光出力	各5mW以下（JIS C 6802：2014 レーザークラス2）		
ライン幅	2.5mm/10m		
ライン投射角	垂直130° ±10% 通り芯240° ±20% 水平360°	垂直130° ±10% 通り芯240° ±20% 水平110° ±10%	垂直130° ±10% 水平110° ±10%
スポット径	1.5mm/1m（下部スポット光）		
ライン光切替	さげふり・ろく/ おおがね・ろく/ おおがね・ろく200°/ おおがね・通り芯・ろく/ クロスライン・ろく/ 全周ろく/フルライン	ろく/ さげふり・ろく/ おおがね・通り芯・ろく	ろく/ おおがね/ おおがね・ろく
輝度切替	3モード（常時/パルス）エコモード/通常モード/高輝度モード		
指示方式	ジンバル機構による自動鉛直指示		
鉛直指示範囲	±1.5°（範囲外は消灯で警告）		
自動追尾装置	グリーン専用自動追尾受光器対応		
制動方式	マグネットダンパー方式		
精度	投射光	±1mm/10m	
	おおがね	90° ±0.01°	
電源	バッテリー/専用ACアダプタ/USB用アダプタ		
使用時間 (BL1015使用時)	フルライン時 エコモード時：約12h 通常モード時：約9h 高輝度モード時：約---	おおがね・通り芯・ろく時 エコモード時：約18h 通常モード時：約15h 高輝度モード時：約10h	おおがね・ろく時 エコモード時：約20h 通常モード時：約17h 高輝度モード時：約12h
使用温度範囲	-10℃～+40℃		
バッテリー切れお知らせ表示	バッテリー切れお知らせランプ（黄色）点灯		
ESD保護対策	レベル：4（国際規格IEC 61000-4-2）		
寸法	径φ101mm×高さ255mm（突出部を除く）		
質量(バッテリー含)	1.9kg（バッテリーBL1015搭載時）		
三脚ネジ	W5/8		
標準付属品	リモコン追尾受光器、専用バイス、レーザー用透視メガネ 収納ケース、肩掛けベルト		

※仕様および形状などは改良のため変更する場合があります。

※仕様値は使用環境条件等により異なります。

※0℃以下での使用の際、電源投入直後はラインが薄くなる場合がありますが故障ではありません。レーザーを点灯させ安定するまでお待ちください。

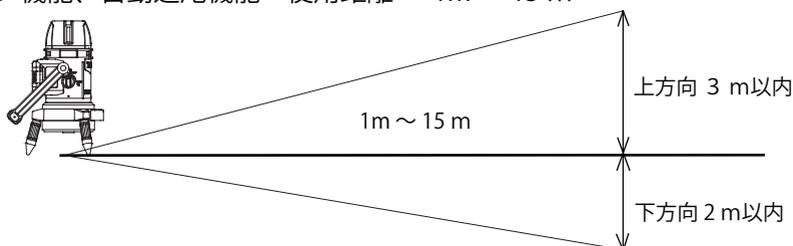
(2) リモコン追尾受光器

機能	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーンレーザー光位置検出（受光機能） ● 自動追尾機能 ● リモコン機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 本体水平回転 2) ライン光投射モード切替 3) ライン光輝度切替 4) ライン光消灯 	
受光距離	1 m～2.5 m（墨出し器の輝度：通常モード時）	
受光精度	レーザー光中心から±1 m以内	
受光検出表示	表示LED ラインLED 3段階表示：赤色／緑色／橙色	
	ブザー音 ブザー音量 音量表示	検出音：長断続音／連続／短断続音 音量3段階切替：小→大→消音 緑色点灯：小音量、赤色点灯：大音量、消灯：消音
自動追尾使用距離	1 m～1.5 m（墨出し器の輝度：通常モード時）	
リモコン使用距離	1 m～1.5 m	
電源	単4アルカリ乾電池（LR03）×4本	
電池交換表示	電源表示LED点滅で電圧低下警告	
使用温度範囲	-10℃～+40℃	
防塵防水性能	保護等級 IP56（JISC0920）	
寸法	188 mm×56 mm×39 mm	
質量	210 g（乾電池含む）	

※仕様および形状などは改良のため変更する場合があります。

※仕様値は使用環境条件等により異なることがあります。

リモコン機能、自動追尾機能 使用距離：1m～15m



※上記リモコンの使用可能距離は、屋内での目安です。

安全・使用上のご注意

注意文の **⚠ 警告** ・ **⚠ 注意** ・ **注** の意味について

ご使用上の注意事項は **⚠ 警告** ・ **⚠ 注意** ・ **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告

：取り扱いを誤ると使用者が死亡または障害を負う可能性のある内容のご注意。

⚠ 注意

：取り扱いを誤ると使用者が傷害を負う可能性または物損事故が発生する可能性のある内容のご注意。

注

：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

⚠ 警告

- ・ ご使用前に、「取扱説明書」と「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上正しく使用してください。
- ・ 感電、火災、重傷などの事故を未然に防ぐために、この「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ 「充電工具」は、充電式（バッテリーパック式）電動工具を示します。

a) レーザー光に関する安全事項

- ・ 本機はレーザー光を投射します。レーザー安全基準（JIS C6802：2014）のクラス2に準拠していますが、以下の内容に注意してください。
 - 光学器具で直接レーザー光を見ないでください。
望遠鏡やルーペなどでレーザー光を直接見ると危険です。
 - レーザー光を直接のぞかないでください。
 - レーザー光路は眼の高さを避けてください。
 - レーザー光路に立ち入らないようにしてください。
 - レーザー光路に反射物を置かないでください。
 - レーザー光を他の人に向けないでください。
- ・ レーザー光を連続して見ると、視力障害を起こすことがあります。
障害が疑われる場合は速やかに医師の診断を受けてください。

b) 作業環境

1. 作業場は、整理整頓し、いつもきれいに保ってください。
 - ・ ちらかった暗い場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 可燃性の液体・ガス・粉じんのある場所で使用しないでください。
 - ・ 充電工具から発生する火花が発火や爆発の原因になります。
3. 使用中は子供や第三者を作業場に近づけないでください。
 - ・ 注意力が散漫になり、操作に集中できなくなる可能性があります。
 - ・ 作業員以外、充電工具や充電器のコードに触れさせないでください。

⚠ 警告

c) 電気に関する安全事項

1. 電源コンセントは充電器の電源プラグに合ったものを使用してください。また、電源プラグの改造をしないでください。接地付きプラグは確実にアースをしてください。
 - ・改造していない電源プラグおよびそれに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクが低減されます。
2. 金属製のパイプや暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫の外枠などアースされているものに身体を接触させないようにしてください。
 - ・感電する恐れがあります。
3. 本機は、雨ざらしにしたり、湿った、またはぬれた場所で使用したりしないでください。
 - ・バッテリーケースに水が入り、バッテリーが短絡する恐れがあります。
4. 充電器の電源コードを乱暴に扱わないでください。
 - ・電源コードを持って充電器を運んだり、引っ張ったりしないでください。
 - ・また、電源コードを抜くために電源コードを利用しないでください。
 - ・電源コードを熱、油、角のある所、動くものに近づけないでください。
 - ・電源コードが損傷したり、身体に絡まって感電する恐れがあります。
5. 使用環境に適した延長コードを使用してください。
6. USB端子付きの充電工具や充電器は端子間を短絡（ショート）させないでください。
 - ・針、針金がUSB端子内に入ると、短絡（ショート）して発煙、発火の恐れがあります。
7. ACアダプタ（別販売品）・単3形電池ホルダ（別販売品）は墨出し器専用のものを使用してください。
 - ・ACアダプタは、交流100V（AC100V）の家庭用電源コンセントにつないでください。異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。
8. ぬれた手でACアダプタの抜き差しをしないでください。
 - ・感電の原因となります。
9. 電源供給ケーブル・ACアダプタ・単3形電池ホルダを口でくわえないでください。
 - ・感電の原因となります。
10. ACアダプタを使用して異常が起きたら
 - ・電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いてバッテリーをはずし、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。

d) 充電工具の保管

1. 使用しない充電工具は、きちんと保管してください。
 - ・子供の手の届かない安全な所、乾燥した鍵のかかる所に保管してください。

e) バッテリーの使用と手入れ

1. バッテリーを差し込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。
 - ・スイッチがオンの位置にあるときにバッテリーを差し込むと事故につながります。
2. バッテリーは専用充電器以外では充電しないでください。
 - ・ほかのバッテリー用の充電器を流用すると、火災、発熱、破裂、液漏れの恐れがあります。

⚠ 警告

3. マキタが指定した専用バッテリー以外使わないでください。また、改造したバッテリー（分解してセルなどの内蔵部品を交換したバッテリーを含む）を使用しないでください。
 - ・墨出し器の性能や安全性なども損なう恐れがあり、火災やけが、故障、破裂などの原因になります。
4. バッテリーの端子部を金属などで接触させないでください。
 - ・バッテリーを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。短絡して発熱、発火、破裂の恐れがあります。
 - ・本機または充電器からはずした後は、バッテリーにバッテリーカバーを必ず取り付けてください。
5. 高温などの過酷な条件下ではバッテリーから液漏れすることがあります。濡れ出た液体に不用意に触れないでください。
 - ・万が一、バッテリーの液が目に入ったら、直ちにきれいな水で十分洗い医師の治療を受けてください。
 - ・バッテリーの液は炎症ややけどの原因になることがあります。
6. ご使用済みのバッテリーは一般家庭用ゴミとして棄てないでください。
 - ・棄てられたバッテリーがゴミ収集車内などで破壊されて短絡（ショート）し、発火、発煙の原因になる恐れがあります。
- f) 単3形電池ホルダ（以降、電池ホルダと表記）のご注意
 1. 電池ホルダは単3形電池専用です。
 2. 電池ホルダはマキタ製品以外に取り付けて使用しないでください。また、マキタ製電動工具にも使用しないでください。
 - ・火災や故障の原因となります。
 3. 電池ホルダには種類、メーカーの異なる電池や残量が異なる電池（新しい電池と使用した電池など）を一緒に使用しないでください。
 - ・充電電池と乾電池を一緒に使用したり、マンガン乾電池とアルカリ乾電池などを混ぜて一緒に使用すると発熱、破裂、液漏れの原因となります。
 4. 電池を取り付けたままの電池ホルダを金属類と一緒にしないでください。
 - ・金属類が DC ジャックプラグの金属部に触れると、発熱、破裂、液漏れの危険性があります。
 5. 電池ホルダを水に浸けたり、ぬらさないでください。
 - ・発熱、液漏れの原因となります。
 6. 電池ホルダを使用しないときや保管するときは必ず電池ホルダのスイッチをOFFにし、電池を電池ホルダから取りはずしてください。
 - ・液漏れの原因となります。
 7. 電池および電池ホルダは、使用前・使用後にかかわらず子供の手の届かない安全なところに保管してください。
 8. 電池カバーがうまく閉まらない場合は、直ちに使用を中止し、子供が触らないようにしてください。
- g) 電池の注意事項
 1. 電池を誤って飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
 2. 高温などの過酷な条件下では電池から液漏れすることがあります。漏れ出た液体に不用意に触れないでください。

⚠ 警告

3. 電池は誤った使い方をしますと、破裂・発火の原因となることがあります。
また、液漏れをして機器を腐食させたり、手や衣類などを汚す原因にもなります。
4. 電池の取扱いについては、次の点に特に注意してください。
 - ※ 金属小物(かぎ、コイン、装飾品ネックレスなど)と一緒にポケットやかばんなどに入れない
 - ※ 加熱したり、火の中へは絶対に投げ込まない
 - ※ 分解したり、ハンダ付けしない
 - ※ 端子をショート(短絡)させない
 - ※ 電池のプラスとマイナスの向きを逆に取り付けしないでください。
 - ※ 電池が液漏れした場合は、電池ホルダ内に付いた液をよく拭き取り、新しい電池と交換してください。
 - ※ 電池の液は炎症ややけどの原因になることがあります。
 - ※ 漏れた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。
 - ※ 万が一電池の液が目に入ったときは、直ちにきれいな水で十分洗い医師の治療を受けてください。
 - ※ 使用済みの乾電池を処分する際は、お住まいの市町村の指示に従って処分してください。
 - ※ 使用済みの充電電池は、端子にテープなどを貼って絶縁してから、リサイクルボックスにお入れください。

h) 整備

墨出し器は、専門家による純正部品だけを用いた修理により安全性を維持することができます。

- 本機、充電器、バッテリーを分解、修理、改造はしないでください。発火したり、異常動作して、けがををする恐れがあります。
- 本機が熱くなったり、異常に気づいたときは点検・修理に出してください。
- 本機は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
- 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。

i) その他の安全事項

1. 損傷した部品がないか点検してください。
 - 異常・故障時には、直ちに使用を中止してください。そのまま使用すると発煙・発火、感電、けがに至る恐れがあります。 <異常・故障例>
 - ×電源コードや電源プラグが異常に熱い。
 - ×電源コードに深いキズや変形がある。
 - ×電源コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
 - ×焦げくさい臭いがする。
 - ×ビリビリと電気を感じる。
 - スイッチを入れても動かないなど不具合を感じた場合は、すぐにバッテリーを抜いてお買い上げの販売店、または当社営業所に点検、修理をお申し付けください。

⚠ 警告

2. 正しい付属品や別販売品を使用してください。
 - ・この取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品や別販売品以外のものを使用すると、故障、事故、けがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。
 - ・本機が熱くなったり、異常に気づいたときは点検・修理に出してください。
 - ・本機は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - ・修理は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
 - ・修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。
3. 使用時間が極端に短くなったバッテリーは使用しないでください。
4. 落したり、何らかの損傷を受けたバッテリーは使用しないでください。
5. 雷が鳴ったり、長期間使用しない場合には、電源から電源プラグを抜いてください。感電や火災の原因になります。
6. ラッカー、ペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、ガス、接着剤などのある場所では充電しないでください。
 - ・爆発や火災の恐れがあります。
7. 火災の恐れがあります。次のようなことをしないでください。
 - ・ダンボールなどの紙類、座布団などの衣類、畳、カーペット、ビニールなどの上では充電しないでください。
 - ・風窓のある充電器は、充電中に風窓をふさがないでください。また風窓に金属類、燃えやすいものを差し込まないでください。
 - ・綿ぼりなど、ほこりの多い場所で充電しないでください。
8. 充電器のバッテリー装着部には充電用端子があります。金属片・水などの異物を近づけないでください。
 - ・そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。
9. 充電器は充電以外の用途には使用しないでください。
10. 充電中、発熱などの異常に気が付いたときは、直ちに電源プラグを抜いて充電を中止してください。そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。
11. バッテリーは、火への投入、加熱をしないでください。
 - ・発火、破裂の恐れがあります。
12. バッテリーに釘を刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしないでください。
 - ・発熱、発火、破裂の恐れがあります。
13. バッテリーを火のそばや炎天下など高温の場所で充電・使用・保管しないでください。
 - ・バッテリーを周囲温度が50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。バッテリー劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
14. 正しく充電してください。
 - ・充電器は定格表示してある電源で使用してください。昇圧器などのトランス類を使用したり直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。（当社インバータ制御付エンジン発電機は除く。）異常に発熱し、火災の恐れがあります。
 - ・周囲温度が10℃未満、または周囲温度が40℃以上ではバッテリーを充電しないでください。破裂や火災の恐れがあります。

⚠ 警告

- ・バッテリーは、換気の良い場所で充電してください。バッテリーや充電器を充電中、布などで覆わないでください。破裂や火災の恐れがあります。
 - ・使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。破裂や火災の恐れがあります。
 - ・電源コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないような場所で充電してください。発煙、発火、感電の恐れがあります。
15. めれた手で電源プラグに触れないでください。
・感電の恐れがあります。
16. バッテリーは、電力量が100Whを超える場合、危険物に分類されます。
・輸送の際は、輸送会社にお問い合わせの上、指示に従ってください。
・電力量は、バッテリー裏側の注意ラベルに記載されています。(右図の○部分)



⚠ 注意

1. 作業前には点検を行い精度を確認してください。
点検しないと、誤差が生じた場合に誤った作業をすることになります。
詳しくは【精度の点検】をご覧ください。
2. 強い振動・衝撃を与えないでください。
過度な衝撃は破損や性能の低下をまねくことがあります。
振動や衝撃が加わった場合には精度の点検を行ってください。
3. 本機を移動させる時は電源をOFFにしてからお持ちください。
作業が終了したら電源スイッチをLOCK-OFF側に回してください。
電源がOFFになり内部がロックされます。
4. 異常が認められた時は、本機をお使いにならないでください。
すぐに作業を中止して、お買い上げの販売店または、最寄の当社営業所にお申し付けください。
5. 電源スイッチをON側に回してレーザーが点灯しない場合は、本機を2, 3回軽く振ってください。
本機を2, 3回軽く振ってもレーザーが点灯しない場合は、使用を中止して、お買い上げの販売店または、最寄の当社営業所にお申し付けください。
6. 電源投入時は、電源を切った時のライン光投射モードと同じモードから投射します。
ライン光が眼に入らない位置でスイッチを操作してください。
7. 付属のリモコン追尾受光器 (LDG-4)はグリーン自動追尾機能搭載墨出し器専用です。
8. グリーンレーザーは視認性が高いため暗室や暗い場所では内部からの反射や外部のガラス等の反射光が視認できる場合があります。
9. 結露したまま使用しないでください。
急激な温度変化により結露する場合があります。
結露が確認されましたら、電源を入れずに結露が取れるまで自然放置してください。

⚠ 注意

- 1 0. ライン光の交点付近では受光器を使用しないでください。
水平ライン光と垂直ライン光との交点付近では、受光器での検出ができませんので、本体を回転させるか、受光位置を変更してご使用ください。
- 1 1. 墨出し器とリモコン追尾受光器の間を障害物（手など）でさえぎらないでください。
リモコンおよび追尾の赤外線信号が送受信ができず、正しい動作ができなくなります。
- 1 2. リモコン追尾受光器は外乱（反射光やノイズ等）により正しく検出できない場合があります。
- 1 3. 使用環境によりリモコン追尾受光器で検出または追尾しにくい時は、ライン光の明るさを通常モードで使用することを推奨します。
- 1 4. リモコン追尾受光器で追尾完了時に検出が正しくない場合、乾電池の容量が少ないことによる赤外通信エラーが考えられますので、新しい乾電池4本と交換して再度確認してください。
- 1 5. 他のリモコンを同時に使用しないでください。
他の赤外線リモコンと混信して誤動作の原因になります。混信している場合、チャンネルを切替えてご使用ください。詳しくは、【リモコンチャンネルの切替】をご覧ください。
- 1 6. 運搬する場合は、収納ケースに入れて運んでください。
- 1 7. 本機は必ず収納ケースに入れ、高温、多湿、振動、ほこりの多い場所を避けて保管してください。
- 1 8. ACアダプタ（別販売品）のコードが巻き付かないように操作してください。
- 1 9. レーザー光射出口の窓は光学ガラスを採用しているため汚れると高精度の検出ができなくなることがありますので、柔らかい布などで拭き取ってください。
- 2 0. 本機が汚れた時は、乾いた柔らかい布で拭いてください。
汚れがひどい時は、水にひたした布をよくしぼって拭き取ります。
その後、もう一度乾いた柔らかい布で水分を拭き取ってください。

アルコール、ベンジン、シンナーなどの揮発性の溶剤は使用しないでください。
(変色、変形、変質などの故障の原因になります。)

- 2 1. 絶対に分解・改造をしないでください。
本機を分解、改造すると故障、感電の原因となります。
- 2 2. 長期間ご使用にならない場合は、バッテリーを取り外してください。
- 2 3. 使用者への安全教育について、レーザー光の性質、危険性など、十分理解の上ご使用ください。
- 2 4. 子供には使用させないでください。

注

1. 本機に搭載できるバッテリーは、BL1015/BL1040Bです。
2. 電源が離れていて、延長コードが必要なときは、充電器を最高の能力で支障なくご使用していただくために十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。
使用できる延長コードの太さ（導体交断面積）と長さの目安

延長コードの太さ（導体交断面積）	コードの長さの目安
2.0 mm ²	30 m

特 徴

[マキタの充電式リチウムイオンバッテリー(CXT)対応]

- ・ 10.8Vスライド式バッテリーシリーズに本機が加わりました。
- ・ お手持ちのL i - i o nバッテリーを本機に装着し、長時間の使用ができます。

[ダイレクトグリーン]

- ・ 半導体グリーンレーザーを搭載しています。
- ・ 明るい場所では高輝度モードに切り替えられます。
- ・ エコモードでは省エネになり、使用時間が伸びます。

[自動追尾機能搭載]

- ・ 追尾機能で一人でおおがね・通り芯の墨出し作業が簡単に正確にできます。

[フルライン投射](SK506GDのみ)

- ・ フルラインで投射しますのであらゆる作業での効率が高まります。

[墨出し器点灯モード記憶]

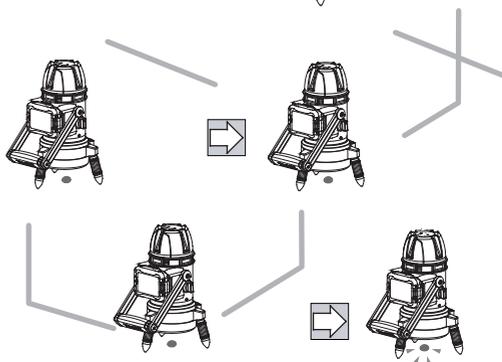
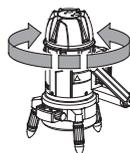
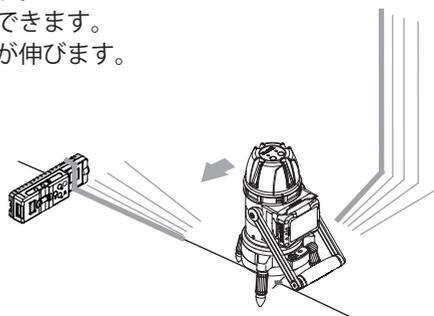
- ・ 作業を中断しても消灯前の点灯モードを記憶しています。

[リモコン機能搭載]

- ・ 墨出し器の水平回転／停止／逆回転を遠隔操作できます。

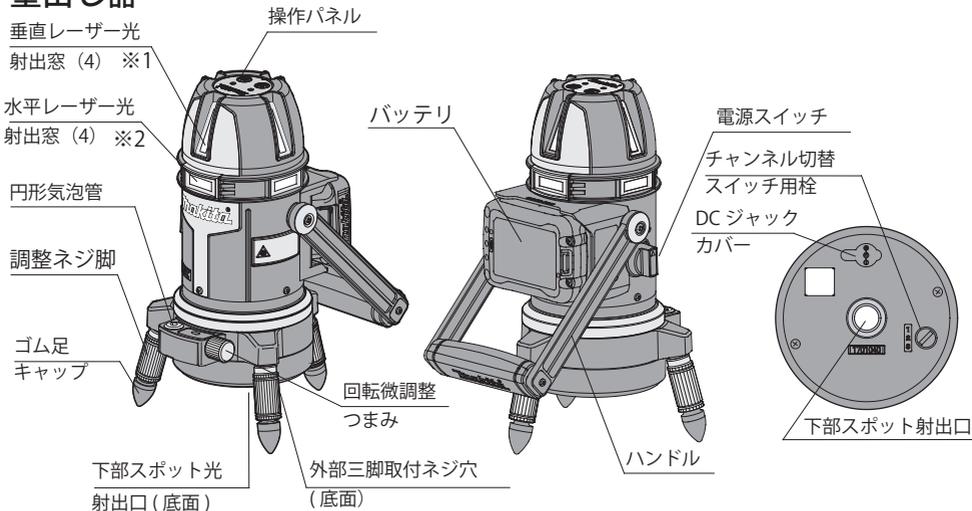
- ・ 墨出し器のライン光投射モードを切替えます。

- ・ 墨出し器のライン光を消灯することができます。



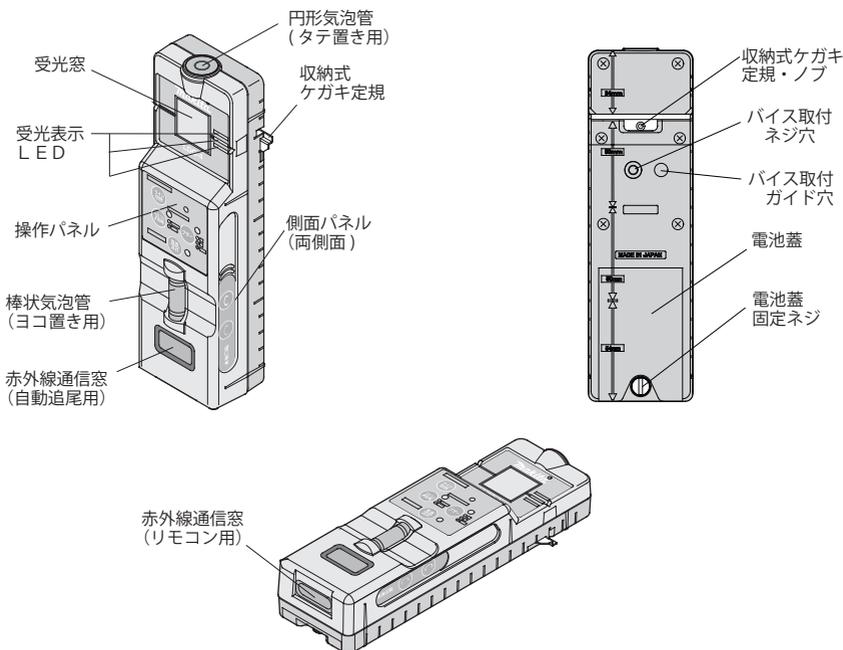
各部の名称

墨出し器

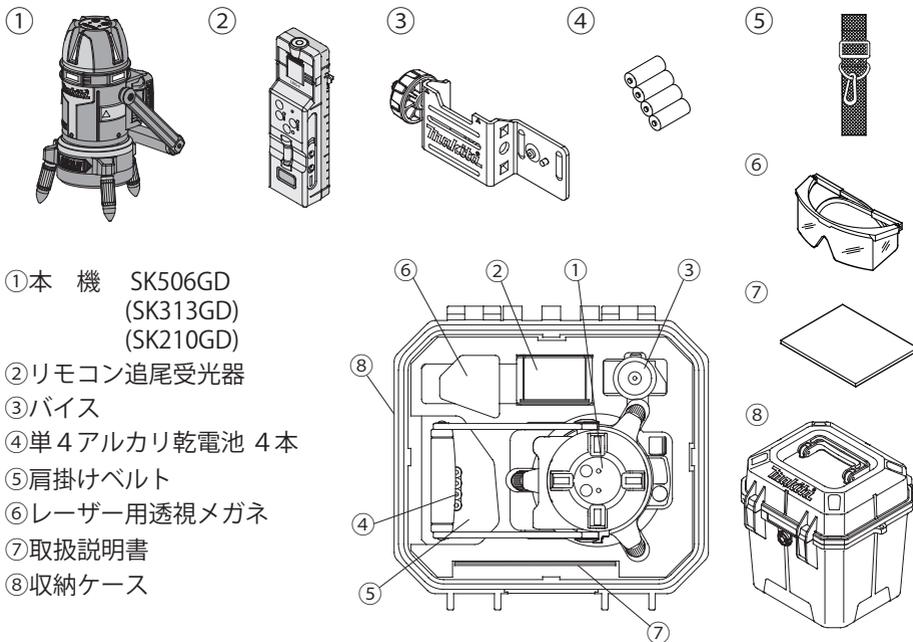


図は SK506GD、※1 印の数値は SK131GD は (3)/SK210GD は (2)
 ※2 印の数値は SK131GD、SK210GD とともに (1) です。

リモコン追尾受光器



標準付属品

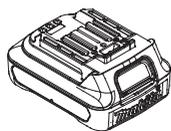


- ①本機 SK506GD
(SK313GD)
(SK210GD)
- ②リモコン追尾受光器
- ③バイス
- ④単4アルカリ乾電池 4本
- ⑤肩掛けベルト
- ⑥レーザー用透視メガネ
- ⑦取扱説明書
- ⑧収納ケース

別販売品

別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店、または当社営業所へお問い合わせください。

- バッテリBL1015
部品番号(A-59841)



- バッテリBL1040B
部品番号(A-59863)



- 充電器DC10SA
部品番号(JPADC10SA)



- USB用アダプタ
部品番号(JPAADP05)



- 電源供給ケーブル
部品番号(A-60171)

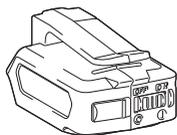


- ハンドストラップ
部品番号(A-59972)

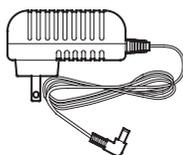


別販売品

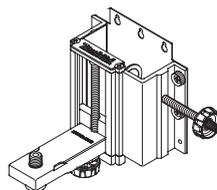
- USB用アダプタ
スライド式Li-ion 10.8V用
部品番号(JPAADP06)



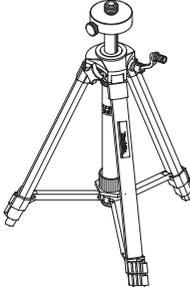
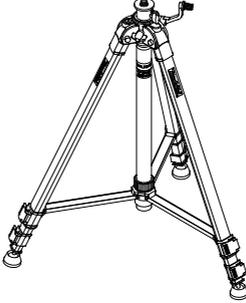
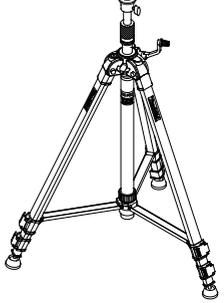
- 専用ACアダプタ
部品番号(TKALV42150)



- 軽天・壁掛兼用マウント
部品番号(A-63666)



- エレベータ三脚
(下部レーザースポット光投射可能)

		
エレベータ三脚ミニ	エレベータ三脚	3mエレベータ三脚
部品番号(TK00LM1001)	部品番号(TK00LM4001)	部品番号(TK00LM5030)
400~1,140mm	670~1,800mm	790~2,870mm

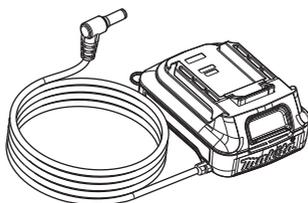
エレベータ三脚（3種）をご使用時の注意事項

DCジャック使用時は、三脚アダプタ（TK00LM1002）を併用することをお勧めします。

- 三脚アダプタ
部品番号(TK00LM1002)



- 単3形電池ホルダ
部品番号(A-67549)



使用方法

バッテリー（別販売品）について

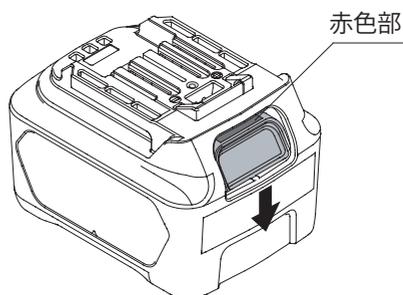
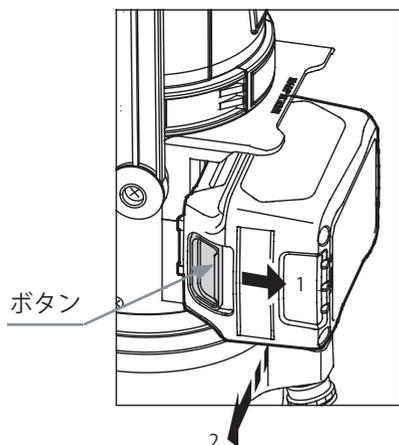
- ・お買い上げ時は、バッテリーは十分に充電されていません。ご使用前に充電器で正しく充電してからご使用ください。
- ・使用しないときはバッテリーカバーをかぶせてください。バッテリーを水やほこりから保護するのに役立ちます。
- ・使用しないときは本機からバッテリーを抜いて保管してください。

⚠ 警告

バッテリーは確実に本機に差し込んでください。ボタン上部の赤色部が見えている場合は完全にロックされていません。赤色部が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください。
・差し込みが不十分ですと、はずれて事故の原因になります。

バッテリーの取り付け・取りはずし方

- ・バッテリーを本機に取り付けるときは、片方の手で本機を押さえながら、本機の溝にあわせ、奥まで確実に挿入してください。この際、ボタン上部の赤色部が見えている場合は完全にロックされていません。赤色部が見えなくなるまで、確実に挿入してください。
- ・バッテリーを本機から取りはずすときは、片方の手で本機を押さえながらもう一方の手で
 1. バッテリー正面のボタンを下げながら
 2. スライドさせると取りはずせます。



使用方法

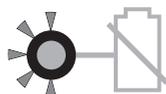
バッテリー保護機能

バッテリー寿命を長くする目的で出力を自動停止する保護機能がついています。これはバッテリーの保護機能によるものであり故障ではありません。

- ・本機を使用中、バッテリー容量が少なくなると操作パネルのバッテリー切れお知らせランプが点灯します。そのまま使用を継続するとレーザー光が消灯します。



操作パネル



- ・バッテリー切れお知らせランプは、ご利用状況や気温などによって実際の残容量と異なる場合があります。

バッテリーを長持ちさせるには

- ・満充電したバッテリーを再度充電しないでください。
- ・充電は周囲温度10℃～40℃の範囲で行ってください。
- ・使用直後などの熱くなったバッテリーは、充電器に差し込んで冷却してから充電することをおすすめします。

バッテリーの回収について

- ・使用済みバッテリーはリサイクルのため回収しております。お買い上げの販売店、または当社営業所へご持参ください。



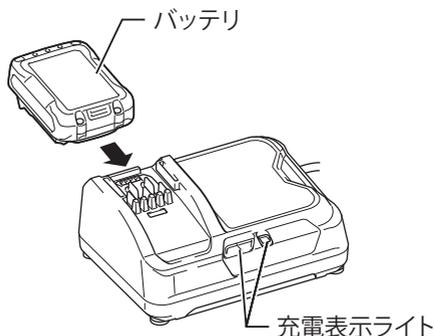
Li-ion

リチウムイオンバッテリーは
リサイクルへ

使用方法

バッテリーの充電方法

1. 充電器の電源プラグを100Vの電源コンセントに差し込んでください。
充電表示ライトは「緑」の点滅を繰り返します。
2. バッテリーを充電器の挿入ガイドにそって、一番奥まで入れてください。
3. バッテリーを挿入しますと充電表示ライトが「赤」に点灯し、充電を開始します。
充電完了すると「緑」の点灯に変わります。
充電時間は周囲温度（10℃～40℃）やバッテリーの状態（新品・長期保存バッテリーや寿命に近いバッテリーなど）により変動します。
4. 充電完了後すぐを使用しない場合は、バッテリーの冷却を行いますので、そのまま差し込んでおくことをおすすめします。
冷却時間は約30分です。
5. バッテリーを抜き取り、電源コンセントから充電器の電源プラグを抜いてください。



使用方法

充電表示ライトについて

充電表示ライトの内容は以下のようになっています。
(通常充電時のライト表示および表示内容)

ライト表示  点灯   点滅	表示内容
 	充電前「緑1個」点滅 電源に差し込んだ状態です。
 	冷却中「赤1個」点滅 バッテリー・充電器が充電可能な温度状態になった後、自動的に充電開始します。
 	充電中「赤1個」点灯 バッテリー容量 約0~80%を示します。
 	80%充電「赤1個・緑1個」点灯 バッテリー容量 約80~100%を示します。 (80%充電表示は、おおよその目安です。 バッテリーの温度・状態により変動します。)
 	充電完了「緑1個」点灯

(異常時のライト表示および表示内容)

 	充電不可「赤・緑1個」交互点滅 バッテリー寿命またはゴミづまりで充電できません。
	冷却異常「黄」点滅 冷却ファン故障、または冷却不足です。

使用方法

注

- ・DS10SAはマキタバッテリー専用の充電器です。他の目的に使用しないでください。
- ・使用直後のバッテリーや直射日光の当たる所に長時間放置したバッテリーを充電されますと充電表示ライトが「赤」の点滅を繰り返す場合があります。
このようなときは、充電器内蔵の冷却ファンによりバッテリーを冷却してから充電を開始します。
- ・充電開始後、充電表示ライトが「赤・緑」の交互点滅を繰り返した場合は、バッテリーの寿命またはゴミづまりで充電できません。
- ・充電時間は周囲温度やバッテリーの状態により長くなることがあります。
- ・次のような状態のときは、充電器またはバッテリーに故障があると考えられますので、充電器とバッテリーの両方を、お買い上げの販売店、または当社営業所へお持ちください。
×充電器のプラグを100Vの電源に差し込んでも、表示ライトが「緑」に点滅しない。
×バッテリーを挿入しても、表示ライトが「赤」に点灯または点滅しない。
×充電開始後、表示ライトが「赤」に点灯した後、4時間以上たっても充電が完了しない。
(表示ライトが「緑」に変わらない。)
- ・バッテリーを使用しないときは、バッテリーカバーをかぶせてください。
バッテリーを水やほこりから保護するのに役立ちます。

冷却システムについて

- ・バッテリーの性能を十分に発揮させるため、充電器内蔵の冷却ファンによりバッテリーを効率よく冷却するシステムです。送風の音がしますが故障ではありません。
- ・冷却ファンが故障したり、充電器やバッテリーのゴミづまりによって冷却不足となった場合、「黄」のライトが点滅し冷却システム異常をお知らせします。
冷却システム異常の場合も充電を行います。充電時間が長くなる場合があります。
このようなときは、充電器、バッテリーの風穴がふさがれていないか、または送風の音がしないか、ご確認ください。
- ・充電中、送風の音がしない場合がありますが、「黄」のライトが点滅していなければ故障ではありません。冷却ファンを停止して充電することがあります。
- ・充電器、バッテリーの風穴をふさがないでください。
- ・頻繁に「黄」のライトが点滅するようなときは、点検・修理をお申し付けください。

使用方法

壁に取り付けて使用する場合

⚠ 注意

- ・壁に取り付けて使用する場合は、必ず吊下げ用ネジ2本で確実に吊下げて下さい。
- ・充電器を吊下げた後は、固定用ネジなどにより充電器を固定してください。固定が不十分な場合、充電器からバッテリーを抜き取る際に充電器が落下する恐れがあります。
- ・取り付け作業を行うときは、バッテリーを抜き取り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- ・取り付け作業を途中で中断すると落下などの恐れがあります。取り付け手順を守り、最後まで確実に取り付け作業を行ってください。
- ・定期的にネジのゆるみがないか確認してください。
- ・ネジのゆるみがあると充電器が落下する恐れがあります。
- ・定期的に充電器の端子部を清掃してください。
- ・端子部の清掃を行うときは、エアダスターなどでていねいに行ってください。
- ・充電器本体、バッテリーの総重量は、約1.1kgになります。取り付け場所の耐加重が不足する場合は、十分な補強を行ってください。

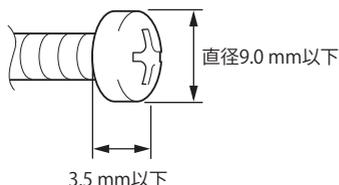
※この充電器は横配置と縦配置の2方向で壁に掛けることができます。

壁面への充電器の取り付けは、次の手順で行ってください。

1. 事前準備

— 用意するもの（別途準備してください） —

- ・木ネジ（吊下げ用）4mm×20mm以上：2本
※ネジ頭は下図の寸法としてください。



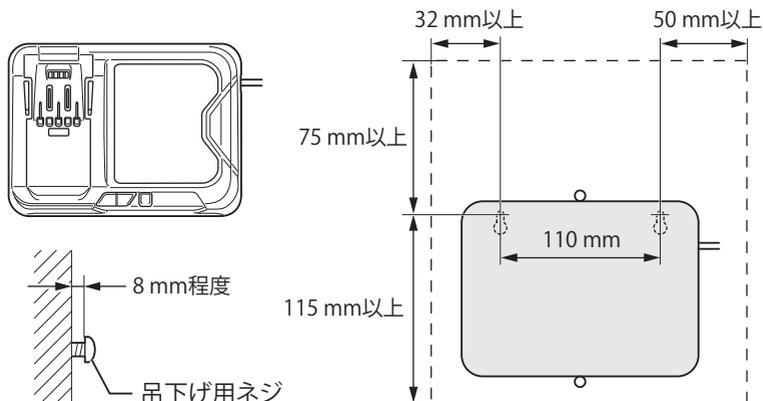
- ・木ネジ（固定用ネジ1）4mm×25mm以上：1本
- ・木ネジ（固定用ネジ2）4mm×40mm以上：1本
- ・工具（ネジ締め用）

使用方法

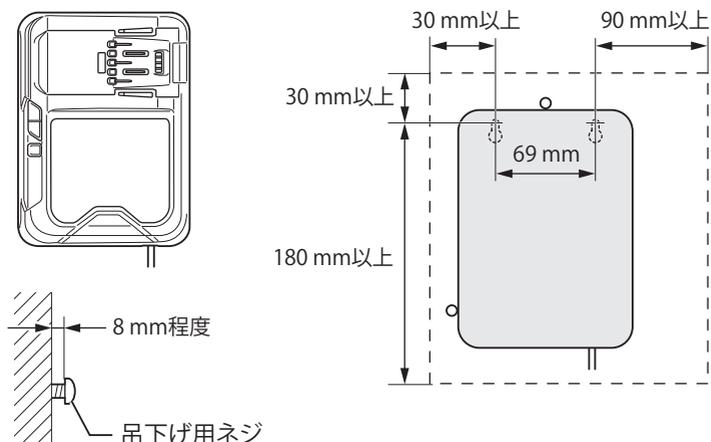
2. 吊下げ用ネジの取り付け

周りに充電器の取り付け作業や、バッテリーの充電作業の障害になる出っ張りなどが無い、強度のある壁面に取り付けてください。

[横配置の場合]



[縦配置の場合]

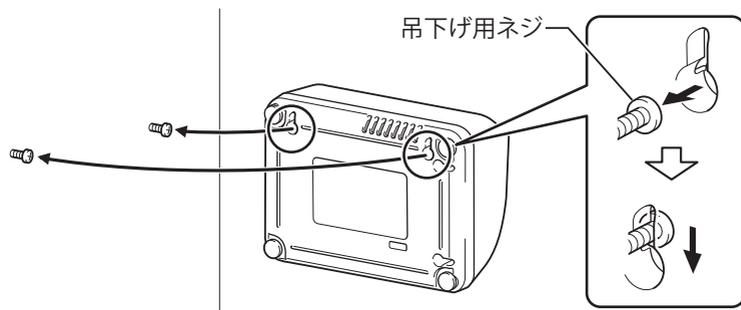


使用方法

3. 充電器の取り付け

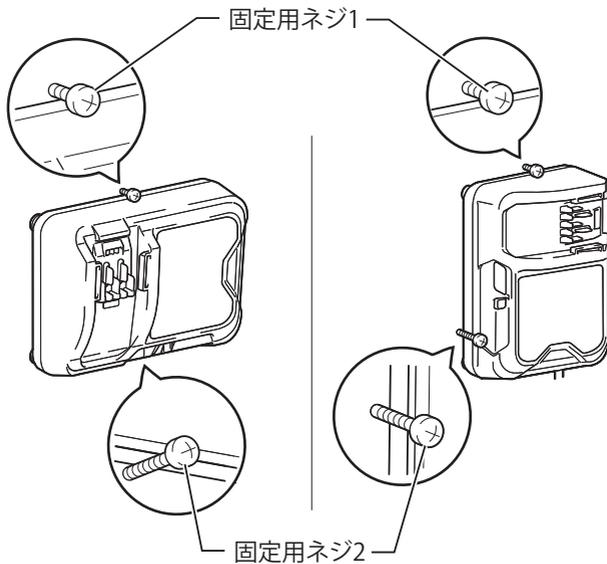
手順2で取り付けした吊下げ用ネジに充電器を引っ掛けてください。

例：横配置で取り付ける場合



4. 充電器の固定

固定用ネジを図のように締め込んでください。



[横配置の場合]

[縦配置の場合]

使用方法

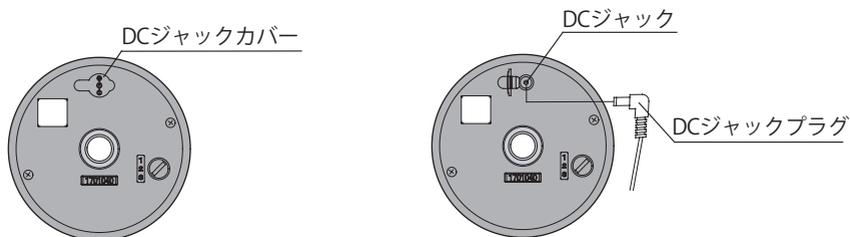
- いつも安全に能率よくお使いいただくために定期点検をおすすめします。
修理・点検はお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
- 充電器の保管場所として次のような場所は避けてください。
 - × お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる所
 - × 温度や湿度の急変する所
 - × 湿気の多い所
 - × 直射日光の当たる所
 - × 揮発性物質の置いてある所

使用方法

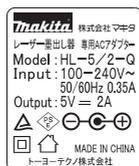
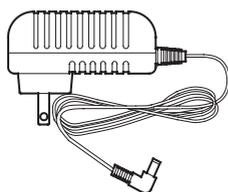
ACアダプタ (別販売品) について

【ACアダプタを使用する場合】

1. DCジャックカバーをめくり、本機の電源スイッチがOFFになっていることを確認し、DCジャックへACアダプタのDCジャックプラグをつなぎます。
2. ACアダプタの電源プラグを電源コンセントにつなぎます。



・使用する前にラベルの表示をご確認ください。



← Output: 5V = 2A



ラベル

⚠ 注意

墨出し器専用以外のACアダプタを使用すると故障する場合がありますので使用しないでください。

注

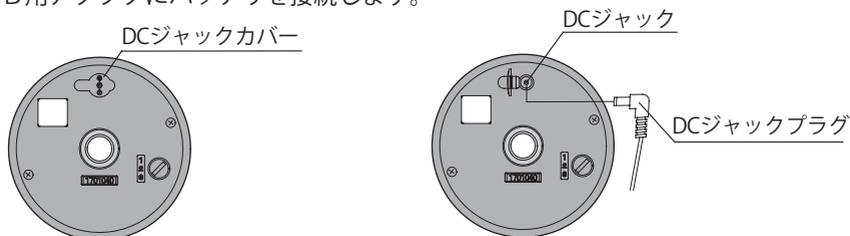
- ・ACアダプタではバッテリーの充電はできません。
- ・本機を使用しないときはACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

使用方法

USB用アダプタ（別販売品）について

【USB用アダプタを使用する場合】

1. DCジャックカバーをめくり、本機の電源がOFFになっていることを確認し、DCジャックへ電源供給ケーブルのDCジャックプラグをつなぎます。
2. USB用アダプタにバッテリーを接続します。

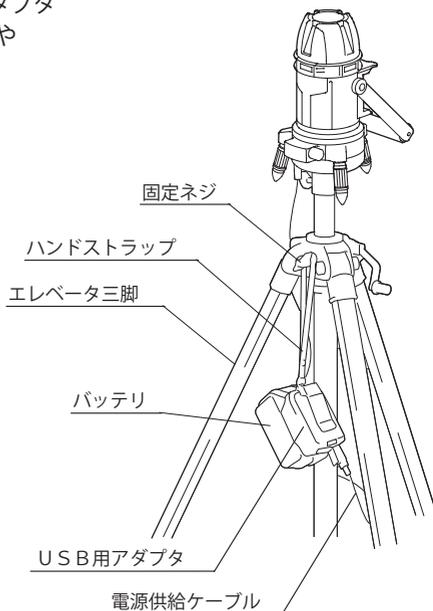


3. USB用アダプタの電源スイッチをONにした後、本機の電源スイッチをONにしてください。

*エレベータ三脚（別販売品）でUSB用アダプタを使用する場合、USB用アダプタにハンドストラップ（別販売品）を取り付けてください。エレベータ三脚の固定ネジをしっかりと固定した状態で、図のようにハンドストラップを固定ネジにかけて、USB用アダプタをご使用ください。固定ネジが緩んでいると落下によりUSB用アダプタの故障や電源供給ケーブルの断線、USB端子やDCジャック部の故障の原因となります。

注

- USB用アダプタではバッテリーの充電はできません。
- USB用アダプタ（ADP05、ADP06）を使用する場合は、ADP05、ADP06の取扱説明書をご確認ください。



使用方法

単3形電池ホルダの使い方

⚠ 注意

電池の取り付け、取りはずしの際は必ず単3形電池ホルダの電源スイッチをOFFにしてください。

- ・故障の原因になります。

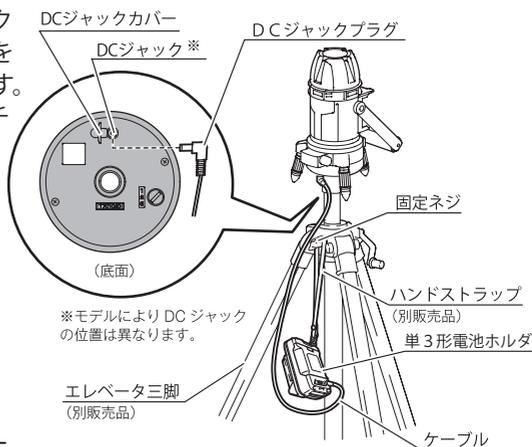
単3形電池ホルダのDCジャックプラグをマキタ製品につなぐときは、必ずマキタ製品と単3形電池ホルダの電源スイッチをOFFにしてください。

- ・故障の原因になります。

1. 電池カバーを取りはずし、単3形電池ホルダに単3形電池4本を挿入します。
 - ・単3形電池ホルダ内に記載してある向きに合わせて、電池を入れてください。
2. 電池カバーを取り付けます。
3. 充電式追尾墨出し器本体のDCジャックカバーをめくり、DCジャックプラグを墨出し器本体のDCジャックにつなぎます。
4. 先に単3形電池ホルダの電源スイッチをONにして、墨出し器本体の電源スイッチをONにしてください。

注

- ・単3形電池ホルダを充電式追尾墨出し器のバッテリー挿入部に取り付けて使用しないでください。
- ・ケーブルが巻き取られ故障の原因になります。
- ・電源スイッチをONにしてもレーザーが点灯しない場合、新品の単3形電池に交換してください。墨出し器使用后、輝度切替スイッチでエコモードを選択し、電源スイッチをOFFにすることをおすすめします。



※エレベータ三脚（別販売品）と一緒に使用する場合

1. 単3形電池ホルダに別販売品のハンドストラップを取り付けてください。
2. エレベータ三脚の固定ネジをしっかりと固定した状態で、図のように単3形電池ホルダをハンドストラップで固定ネジにかけてご使用ください。

使用方法

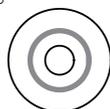
注

- ・単3形電池ホルダのケーブルは束ねないでください。また、ケーブルを踏んだり、三脚の足や身体に引っかけたりしないように注意してください。
充電式追尾墨出し器が三脚ごと倒れ、故障、けがの原因になります。
- ・固定ネジが緩んでいたり落下により単3形電池ホルダの故障やケーブルの断線、DCジャック部の故障の原因となります。

墨出し器の使い方

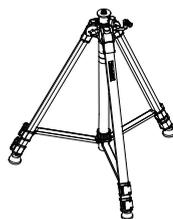
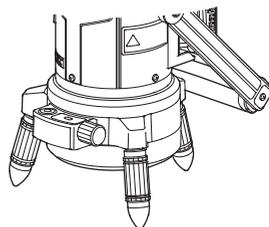
1. 墨出し器の設置について

本機を水平にします。円形気泡管の泡を赤い円の中央にくるように調整ネジ脚を回して調整します。



円形気泡管

エレベータ三脚（別販売品）を使用する場合、エレベータ三脚を先に据え付けます。墨出し器をエレベータ三脚に取り付けます。墨出し器の気泡管の泡が赤い円の中央にくるようにエレベータ三脚の脚を伸縮させてください。



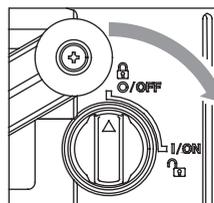
2. 電源スイッチの操作

【電源ON】

電源スイッチを「I / ON」側に回します。

レーザー光が投射します。

前回電源OFFした時のライン光のモード、及び輝度で投射します。

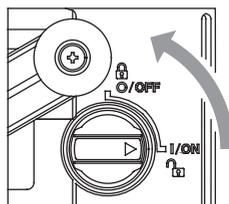


【電源OFF】

電源スイッチを「O / OFF」側に回します。

電源がOFFし、内部の振子がロックします。

電源OFFしたあとでバッテリーもしくはDCジャックプラグを抜いてください。



使用方法

3. ライン光の輝度切替

作業に応じて投射ライン光の明るさを操作パネルの輝度切替スイッチで選択します。電源スイッチを一度切っても、電源ON時は前回電源OFFした時の輝度で投射します。



輝度切替
スイッチ

- エコ**：バッテリーの使用時間が伸びます。
- 通常**：高輝度とエコの中間の明るさです。受光器使用時に最適なモードです。
- 高輝度**：ライン光が明るくなります。SK506GDにおいて、フルラインモードでは、高輝度投射できません。自動的に通常モードに切替ります。



4. ライン光の投射モード切替

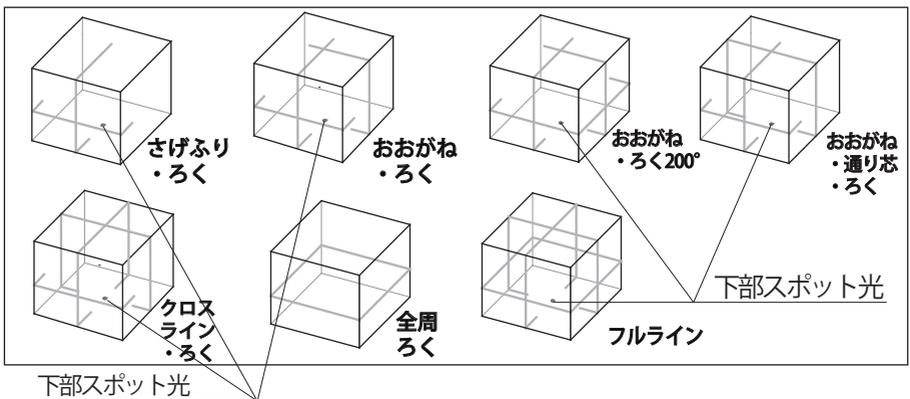
作業に応じて、ライン光の投射モードを、操作パネルのライン切替スイッチで選択します。



ライン切替
スイッチ

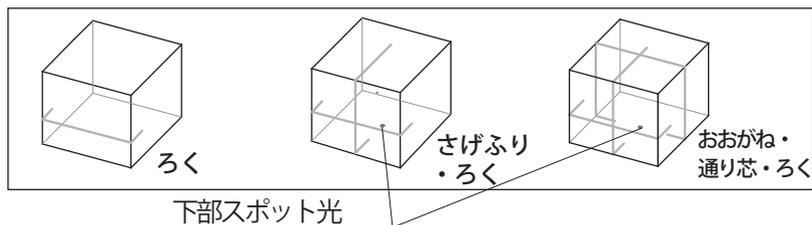
ライン光投射モード記憶機能付き
電源スイッチを一度切っても再投入したときは、同じ投射ライン光で照射します。

SK506GD

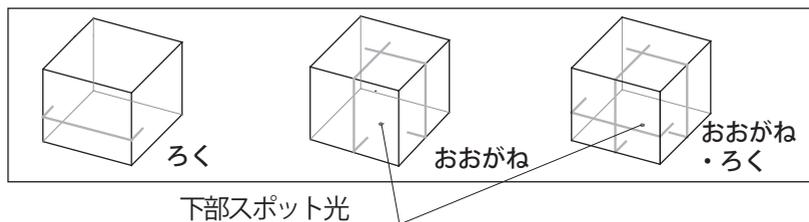


使用方法

SK313GD



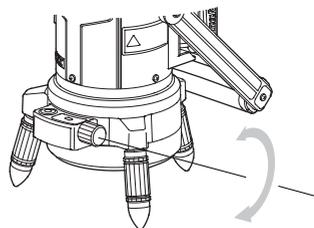
SK210GD



※ ろく（水平ライン光）の高さはエレベータ三脚（別販売品）を使用すると容易にあわせることができます。

5. 水平微動装置

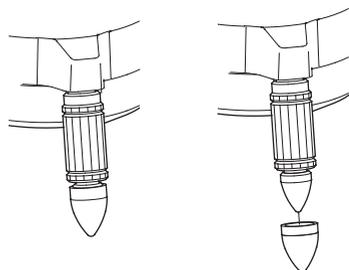
回転微調整つまみを回すと、水平回転の微調整ができます。



水平微動装置

6. ゴム足キャップ

ゴム足キャップは床面にキズを付けたくないときや床面が滑りやすいときにご使用ください。ゴム足キャップは標準装備されています。凹凸のあるコンクリート床などでは、取り外して使用することができます。

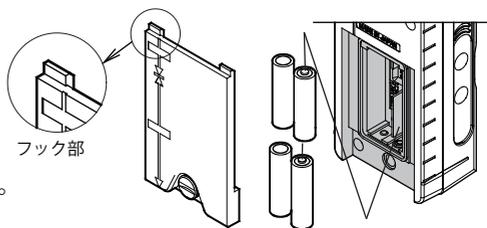


使用方法

[リモコン追尾受光器の使い方]

1. 乾電池の取り付け／交換

コイン等で電池蓋固定ネジを反時計回りにまわして電池蓋をはずします。
新しい単4アルカリ乾電池4本を、電池ケースの表示に合せ (+)、(-) を正しく入れます。
電池蓋のフック部を本体の穴に合わせて差し込み、電池蓋固定ネジをコイン等で締付けて固定します。

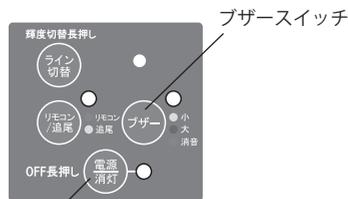


2. リモコン追尾受光器の電源を入れる。

電源スイッチ押しと、電源表示LED（緑色）が点灯します。
各種作業を開始します。

3. 電源を切る。

電源スイッチを長押しして「ピーッピィ」と鳴ってから手を離すと電源が切れます。



電源スイッチ

注

短押しの場合、墨出し器のレーザーが消灯します。（消灯モード）

※ オートパワーオフ機能付

最後の動作から約 5 分後に自動で電源が切れます。
電源を切り忘れて放置したり、収納袋に収納した場合に電池の消耗を防ぎます。

4. ブザースイッチの切替

音量小／音量大／消音の三段階切替【ループバック方式】
ブザー表示LED・・・【緑色】音量小／【赤色】音量大／【消灯】消音



[ライン光の検出]

1. 墨出し器の準備

墨出し器の電源を入れます。
墨出し器のライン光を選択します。
墨出し器のライン光の明るさを通常モードで使用することを推奨します。

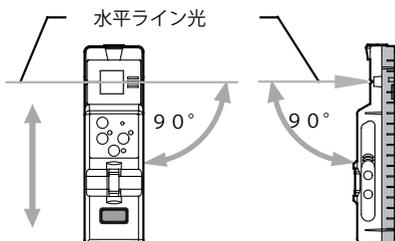
2. リモコン追尾受光器の電源を入れる。

3. リモコン追尾受光器の向き

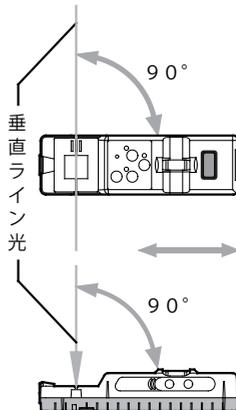
リモコン追尾受光器の向きはライン光によって右図のようにします。

使用方法

水平ライン光を検出します。



垂直ライン光を検出します。



4. ライン光の受光

ライン光が受光窓に当たるようにリモコン追尾受光器を動かします。
受光表示LEDとライン光の位置は連動していますので受光表示LEDが点灯している位置にライン光が投射していることが分かります。

5. 気泡管の確認

受光表示LED（緑色）が点灯する位置で、タテ置き用又はヨコ置き用の気泡管の泡が中央付近にくるようにリモコン追尾受光器を動かします。

6. 検出位置を印する

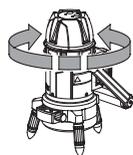
収納式ケガキ定規を使用すると鉛筆などで壁面や床面に印するときに便利です。

[リモコン機能の使い方]

1. 墨出し器の電源を入れる。
2. リモコン追尾受光器の電源を入れる。

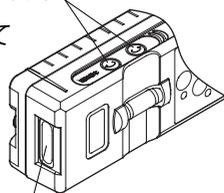
3. 墨出し器をリモコン操作

(1) 本体を水平回転



リモコン追尾受光器の赤外線通信窓を墨出し器に向けて回転スイッチを押すと墨出し器が回転します。スイッチは左/右回転どちらか回転させたい方向を選んでください。回転を停止させるには同じ回転スイッチをもう一度押してください。リモコンによる回転時、一定時間操作されない場合は自動的に回転を停止します。

回転スイッチ



赤外線通信窓

注

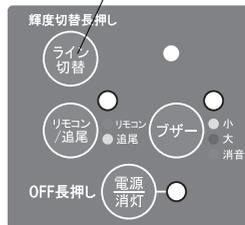
墨出し器とリモコン追尾受光器のチャンネルが合っていないと反応しませんので事前に確認してください。P 35を参照してください。

使用方法

(2) ライン光の投射モードを切替【ループバックスイッチ方式】

作業に応じて投射ラインのモードを切替できます。短押しでライン光の投射モードが切替わります。スイッチを押す毎に「ピー」とブザーが鳴ります。ライン光の投射モードについてはP 29、P 30の「ライン光の投射モード切替」を参照してください。

ライン切替スイッチ

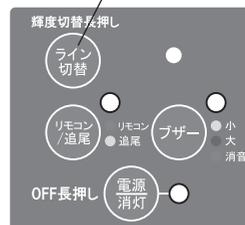


(3) ライン光の輝度切替

【ループバックスイッチ方式】

リモコン追尾受光器の赤外線通信窓を墨出し器に向けてライン切替スイッチを長押しする毎に墨出し器のライン光の明るさが3段階に切替わります。ブザー音が「ピーッピィ」と二回鳴ります。ライン光の明るさについてはP 29の「ライン光の輝度切替」を参照してください。

ライン切替スイッチ

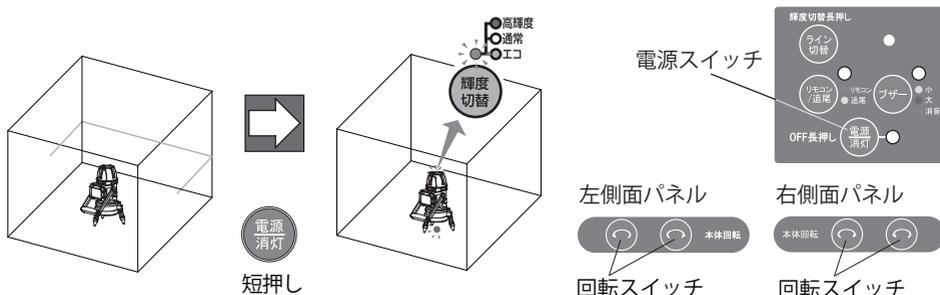


(4) ライン光消灯

リモコン追尾受光器の赤外線通信窓を墨出し器に向けて電源スイッチを短押しするとライン光が消灯します。ブザー音が「ピー」と鳴ります。墨出し器本体の下部スポット光と輝度切替表示LED（緑色）が点滅します。

ライン光の再点灯は、消灯前の輝度で投射します。

墨出し器の操作パネルのスイッチのいずれか又は、リモコン追尾受光器のライン切替、側面パネルの回転スイッチもしくは電源スイッチのいずれかを押します。側面パネルの回転スイッチを押すと墨出し器が回転します。



注

リモコン追尾受光器でラインを消灯したまま墨出し器を収納・運搬しないでください。ロックされていませんので精度不具合になります。墨出し器の電源スイッチをOFFしてください。

使用方法

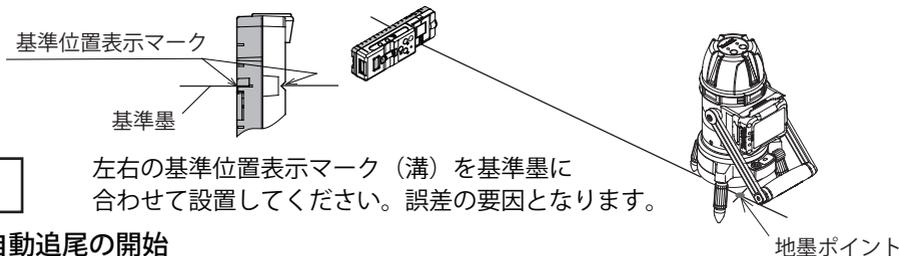
[自動追尾機能の使い方]

1. 墨出し器の準備

墨出し器の電源を入れ、垂直ラインを投射します。
地墨ポイントに下部スポット光が一致する位置に墨出し器を設置します。
墨出し器を水平にします。円形気泡管の泡を赤い円の中央にくるように調整します。

2. リモコン追尾受光器の設置

リモコン追尾受光器の電源を入れます。
リモコン/追尾スイッチを押します。
追尾表示LED（緑色）が点灯します。
リモコン追尾受光器の基準位置表示マークを所定の位置（基準墨）に一致するように横置きに設置します。
ヨコ置きの気泡管の泡が中央付近になるように設置してください。



注

左右の基準位置表示マーク（溝）を基準墨に
合わせて設置してください。誤差の要因となります。

3. 自動追尾の開始

リモコン追尾受光器の上側になっている方の回転スイッチを押します。
回転スイッチは左/右回転どちらか垂直ラインが早く到着する方向を選んでください。
回転スイッチを押すと墨出し器の輝度は「通常モード」に切り替わり、回転を開始します。

注

自動追尾を開始してからリモコン追尾受光器を上下
反転させないでください。正しい動作をしなくなります。

自動追尾中に回転スイッチを押すと回転が一旦停止します。
再度回転スイッチを押すとスイッチの方向に自動追尾を再開します。
自動追尾中に回転方向と反対方向の回転スイッチを押すと反転します。

4. 自動追尾の完了

垂直ラインが受光器のセンターに合うと緑色LEDが点灯し、約2秒間連続点灯後に、
ブザーが「ピッピィ」と鳴って自動追尾動作を完了します。

注

自動追尾動作中にレーザー光もしくは
赤外線通信を障害物（手など）で遮ら
れると誤動作することがあります。
一定時間内に追尾動作が完了しない場合
は自動的に回転を停止します。



使用方法

5. 自動追尾を中止する。

リモコン追尾受光器のリモコン／追尾切替スイッチを押すと回転を停止し、追尾を中止します。

注

リモコン追尾受光器の電池が消耗した場合、墨出し器の回転が停止します。

[リモコンチャンネルの切替]

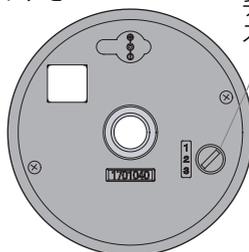
- リモコン追尾受光器と墨出し器は赤外線通信を行います。
同じ場所で本品を2台以上使用する場合は、誤動作を防止するためチャンネルを変更してください。チャンネル切替はリモコン追尾受光器と墨出し器の両方を以下の手順で同じチャンネルに設定します。
チャンネルは「1」～「3」の3チャンネル
(出荷時は1チャンネルに合わせてあります。)

1. 墨出し器側

- ① 墨出し器底面にあるチャンネル切替スイッチ用栓をコイン等で外します。
- ② チャンネルを切替えます。

チャンネル切替は図のようなスライドスイッチを任意のチャンネル番号に合わせます。

1
2
3



注

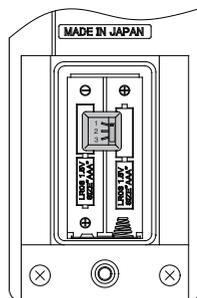
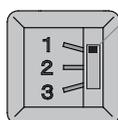
基板に触れないようにしてください。 墨出し器底面

2. リモコン追尾受光器側

- ① 電池蓋を外します。
- ② チャンネルを切替えます。

チャンネル切替は図のようなスライドスイッチを墨出し器側のチャンネル番号に合わせます。

スライドスイッチ



使用方法

収納ケースの空気抜きについて

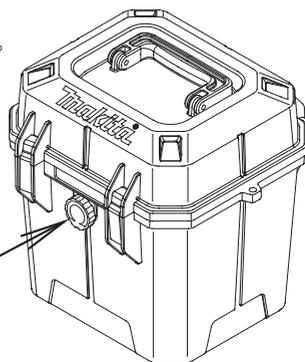
外気とケース内の気圧差により、収納ケースの上蓋が開かない場合があります。

その際は、空気抜き栓をOPEN側に回してください。

外気とケース内の気圧差が解消され上蓋が開けやすくなります。

使用後は、空気抜き栓を忘れずにCLOSE側に回わして戻してください。

空気抜き栓



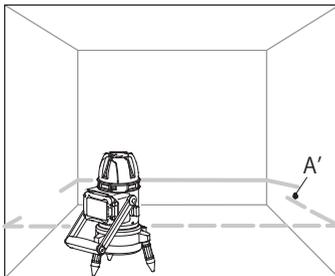
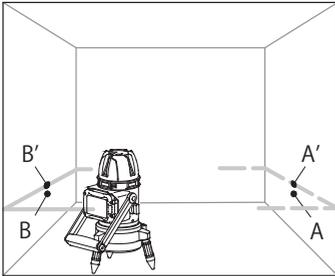
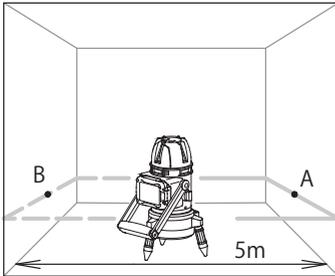
注

空気抜き栓を強く回さないでください。
部品故障の原因になります。

精度の点検

■ 点検して誤差が大きい場合は、お買上げの販売店または、最寄りの当社営業所にお申し付けください。

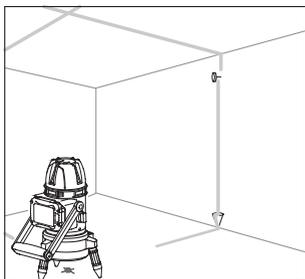
1. 水平ライン精度の点検



- ①両壁まで約5mの中央に墨出し器を設置します。
- ②気泡管の泡が赤い円印の中央にくるよう調整します。
- ③壁面に投射させた水平ライン光の位置に印(A)をつけます。
- ④本体を180°回転させ水平ライン光の位置に印(B)をつけます。
- ⑤墨出し器を壁面から1m離れた位置に移動し、気泡管の泡を中央に調整します。
- ⑥先ほど印したB点付近の水平ライン光の位置に印(B')をつけます。
- ⑦本体を180°回転させ水平ライン光の位置に印(A')をつけます。
(A-A')と(B-B')の差が1mm以内であれば正常です。
- ⑧本体を水平回転し水平ライン光が先に記した点(A')との差が最大になるズレを確認します。
A'点とのズレが1mm以内であれば正常です。

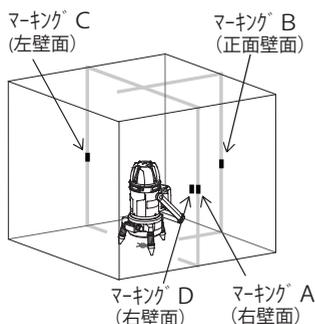
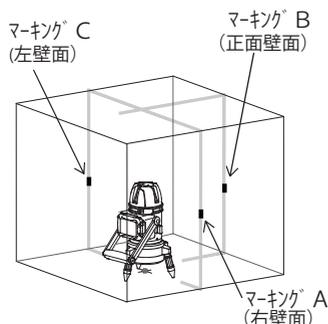
精度の点検

2. 鉛直点および垂直ライン精度の点検



- ①床から約3m離れた壁面に「下げ振り」を設置します。
- ②墨出し器を壁面から3m~5m離して設置します。
- ③気泡管の泡が赤い円印の中央にくるよう調整します。
- ④さげふりモードかおおがねモードに切替えます。
- ⑤天井に投射された鉛直点を観測しながら墨出し器を水平回転させます。
鉛直点がライン光の幅以上に動かなければ正常です。
- ⑥墨出し器を水平回転させ垂直ライン光を「下げ振り」の糸に一致させます。
回転微調整つまみを使用すると正確に合わせることができます。
垂直ライン光と「下げ振り」の糸が合っていれば正常です。

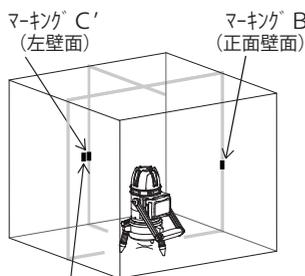
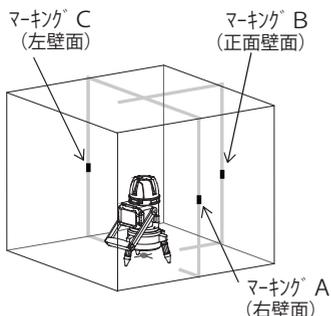
3. 通り芯精度の点検



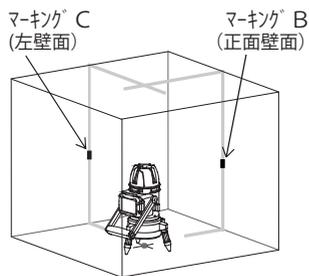
- ①壁の間が4~6mくらいの室内の中央付近に地墨マークを設け、本機をマークに設置します。
- ②垂直ライン光を投射します。
- ③右壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキングAを点け正面の壁面に投射されたおおがねラインの中央付近にマーキングBを点けます。左壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキングCを点けます。
- ④本機がずれないようにゆっくりと180°水平回転し、左壁面のマーキングCに右側垂直ラインを合わせ、右壁面に投射された左側垂直ラインの中央付近にマーキングDを点けます。
- ⑤マーキングAとDの差が1mm以内であれば正常です。
- ⑥他の通り芯ライン光についても同様に精度点検をしてください。

精度の点検

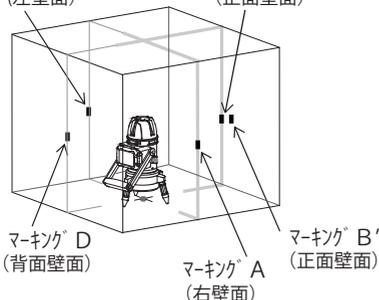
4. おおがね精度の点検



マーキング C (左壁面)



マーキング C (左壁面)
マーキング B (正面壁面)



- ①壁の間が4~6mくらいの室内の中央付近に地墨マークを設け、本機をマークに設置します。
- ②全ての垂直ライン光を投射します。
- ③右壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキング A を点け正面の壁面に投射された おおがねラインの中央付近にマーキング B を点けます。左壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキング C を点けます。
- ④本機がずれないようにゆっくりと水平回転し、正面壁面のマーキング B に右側垂直ラインを合わせ、左壁面に投射されたおおがねラインの中央付近にマーキング C' を点けます。
- ⑤マーキング C と C' の差が 1 mm 以内であれば正常です。
- ⑥他のおおがねライン光についても同様に精度点検をしてください。

[SK210GDの場合]

- ①壁の間が4~6mくらいの室内の中央付近に地墨マークを設け、本機をマークに設置します。
- ②全ての垂直ライン光を投射します。
- ③正面と左壁面に投射された垂直ライン光の中央付近にマーキング (B、C) を点けます。
- ④正面の垂直ライン光をマーキング C に合わせ、背面壁面の中央付近にマーキング D を点けます。
- ⑤同様にマーキング A、B' を点けます。
- ⑥B と B' の差が 3 mm 以内であれば正常です。

